

3 国有林野の林産物の供給

3 国有林野の林産物の供給

(1) 計画的な収穫の実施

国有林野事業では、木材等の林産物について、公益的機能の維持増進を旨とする管理経営を進めることを基本として、自然環境の保全等にも十分な配慮を行いながら、持続的・計画的な供給に努めています。平成24年度には、762万 m^3 の木材を収穫しました。

特に、現在、地球温暖化防止のための森林吸収源対策として、間伐等の森林整備を積極的に進めており、木材の有効利用の観点から、この森林整備の結果として得られる間伐材等の搬出・供給に取り組んでいます。

また、多様な森林を有しているという国有林野の特性を活かし、民有林から供給が期待しにくい樹種等の計画的な供給にも取り組んでいます。

表－１４ 収穫の実施状況

(単位：万 m^3)

区 分	平成24年度	(参考)平成23年度
主 伐	158	154
間 伐	604	615
合 計	762	769

表－１５ 民有林からの供給が期待しにくい樹種の素材(丸太)供給実績

(単位：万 m^3)

樹 種 名	平成24年度	(参考)平成23年度
ヒ バ	1.3	1.2
木曽ヒノキ	0.2	0.1
天然秋田杉	0.1	0.1

事例 公共建築物への天然秋田スギの供給

秋田県では、秋田空港の出発ロビーの改修にあたり、木材利用のPR等のため、秋田県の特産樹種である天然秋田スギを使用することとしました。

秋田森林管理署では、秋田県等の要望を受け、管内国有林から天然秋田スギ丸太（長さ4 m、太さ78cm）1本を供給しました。

（東北森林管理局 秋田森林管理署）



場 所：秋田県秋田市

説 明：写真は、伐採された天然秋田スギ（上）と、秋田空港の出発ロビーに設置された天然秋田スギの様子（下）です。

(2) 林産物等の販売

平成24年度の木材販売量は、立木販売^{注)}については11万 m^3 減少して47万 m^3 に、素材（丸太）販売^{注)}については23万 m^3 増加して236万 m^3 となりました。

販売に当たっては、積極的に推進される間伐に伴い生産された間伐材等について、国産材需要拡大や加工・流通の合理化等に取り組む集成材^{注)}・合板^{注)}工場や製材工場等と協定を締結し、それに基づいて国有林材を安定的に供給する「システム販売」を推進し、平成24年度の素材販売（システム販売）については、17万 m^3 増加して111万 m^3 となりました。

さらに、このような国有林材の安定供給により、エネルギー利用等の新たな需要の開拓にも取り組んでいます。

このほか、インターネット等を活用し、迅速かつ広範囲に公売情報を提供したり、民間市場への素材販売の委託を行うなど樹材種の特質に応じた有利な販売や販路の拡大に努めました。

表－１６ 素材販売量と「システム販売」による販売量

(単位：万 m³)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
素材販売量	180	204	198	213	236
うち システム 販売量	64 (36%)	73 (36%)	88 (44%)	94 (44%)	111 (47%)

注：()書は、全体に占めるシステム販売の割合(%)である。

事例 「システム販売」による小径木の需要拡大に向けた取組

間伐等の森林整備に伴い搬出される木材の中には、建築用に向かない小径木が含まれており、資源の有効活用の観点からこうした木材の需要拡大が課題となっています。

東信森林管理署及び木曽森林管理署では、「システム販売」により、まとまった量のカラマツ小径木を安定供給しており、このことを通じて、需要者は、顧客のニーズに応じ、1 cm単位でのより細かい選別を行うことが可能となり、販路の拡大につながっています。

(中部森林管理局 東信森林管理署、木曽森林管理署)



場 所：長野県小諸市^{こもろ}
説 明：写真は、カラマツ小径材の加工される前の様子（上）と、土木用材として加工された後の様子（下）です。

事例 薪の利活用促進に向けた取組

東日本大震災を契機に、エネルギー需給のあり方に対する国民の関心が高まっており、再生可能エネルギー源の一つである「薪」についても、利活用の促進が課題となっています。

中部森林管理局では、身近なエネルギー源である薪の利活用の促進に向けて、長野県と連携し、「薪談義」と称して、薪問屋、薪ストーブ業者、素材生産業者等による意見交換を実施しました。

当日は、約60名の関係者が参加し、需要側と供給側の結びつきをどう図るかが課題などの意見が出されました。

中部森林管理局では、こうした取組を継続し、薪の需要拡大を図ることとしています。

(中部森林管理局)



場 所：長野県塩尻市ほか
 説 明：写真は、「薪談義」の会場の様子（上）と、乾燥させている薪の様子（下）です。



フォワーダへの木材の積み込み作業（九州森林管理局）